

L.Betzig(ed.), Human nature:A critical reader. Oxford University Press,1997.

33 Cross-Cultural Patterns in the Training of Children: An Evolutionary Perspective BOBBI S.LOW

子供の教育課程における比較文化的なパターン：進化論的観点

p.349

para1 異文化における子育ての傾向に影響する相当なデータの存在

…通常の生活状態における子供の習慣の比較文化的調査

→ 比較文化的に sex と jender の差異と類似点の両者が存在するということを示す(Konner 1981)



para2 これまでの子育てにおける性差の分析 ← 変化の存在の明確な論理的パターンの未発見

← 進化理論のうち特殊進化を用いることの失敗による？

問題は、厳密に定義された、生物学と社会学の問題の間で継続している可能性

Ex.)生物学的仮説…性差がホルモン or 脳の側化の差異と関係するののかに関心

← 全ての文化の中で生じる習慣、典型的な時期に起こる習慣と推測



Konner と Ember の批評…類推に基づく単なる推定である議論、生物学の遺伝学的決定論の性質と社会に起因する習慣との間の矛盾の想定は間違った方向

○全ての習慣は対立遺伝子と環境の相互作用の結果

経験と個体発生論は人類だけでなく、全ての種にとって重要

para3 **本論の目的**：通文化的な子育ての習慣における、性差の機能的な意味についての仮説の検証

(進化的論理から引き出される)

※進化論の方法論…人類以外の種の社会的習慣の複雑なパターン解明に役立つしてきた

他の種の社会よりも複雑で可変的な人間社会においても検証可能な仮説を生み出す

para4 理論的背景：生物の特色の配列は、異なる遺伝子配列に基づく個々の生物の異なる生殖作用の結果が前提

“全ての生物には特色がある”？ ⇔ 生物は複雑な配列と特色の結合、他から独立した特色が存在

(a)遺伝性の差異が存在し、(b)全ての環境の中で、全ての種が平等に生き残り、繁殖する訳ではない

P.350



para1 仮説検証のために行う

_ なぜ、どのようにして、子育てのパターンの特色が個々の遺伝的成功を促進するのか？

なぜ異なる戦略が異なる状況下で予測されるのか？

※自然の選択…進化の過程の一部、変化の方向に何のパターンももたらさない

para2 人間の進化パターンを調査するための早期の試み…人間の適応性を決定的なものとするを批評



種の中の習慣 ← 複雑で順応性のあるもの…重要

→ ここでのアプローチ…教育過程の生態的相関に着目した、行動生態学の一つ

para3 ← 分析において適切な習慣のみが、明確な対立遺伝子や習慣の相関関係を設立する×

…遺伝学の基本：全ての習慣が環境の影響と無関係に発展の中でプログラミングされている×

特定の相関関係…環境の状態(社会の状態を含む)と習慣(学習される習慣を含む)との間に存在すべき

○進化論的セオリーからみた子供の教育の慣行についての仮説

para4 人間以外の種

親による子の成長のための世話と行為のパターン…交尾のシステム・栄養レベル・社会性と種の集団の規模の度合いに関係

性の違い…一夫一婦制の種よりも、一夫多妻制の種により強く影響

雄の特徴の誇張は財産やパートナー、またはその両方の争奪に関係

para5 人間の場合

進化の背景…一夫多妻制として現れる ※現存するデータの 1158 のうち 1078 の社会が一夫多妻制

– 大きな生物学的衝撃を与える社会の慣習を構成する

生物学者の一夫多妻制の定義：雄が複数の雌と交尾する一方で、雌は一匹の雄としか交尾をしない状況

文化人類学者の一夫多妻制の定義：多くの妻を含む婚姻関係

⇨ 人間の一夫多妻制は、他の種よりも多様で複雑

← 妻の集団は姉妹関係であるのか他人であるのか？一緒に住んでいるのか分かれて住んでいるのか？

男性にとって複数の妻を持つに十分な条件は？戦いにおける勇気や財の蓄積における成功？階級やランク？

para6 近年、生物学者も文化人類学者も、性の選択と婚姻形態の生態学的もしくは文化的関連に関心を示す傾向

生物学的視点…他の要素が同じであるとき、一夫多妻制の程度(割合)と強さ(ハーレムの最大規模)は、強さと性的選択の機会を反映

⇨ 他の要素が同じかどうかの決定は、上記のように難しい問題

para7 一夫多妻制の結果(他の状況が同じである場合)

– どの世代でも女性より男性の負担の方がより大きい

男性の生殖の成功の変化は、概して女性のそれよりも大きい

…どの世代でも、男性の方が子どもを持つことを失敗しやすく、またより多くの子どもを持ちやすい。

← 社会が、通常の一夫多妻制のシステムだけでなく、一夫一婦制と乱交の一夫多妻制のシステムを課す

p.351

para1 性による差異の非対称…性的な選択の激しさとの関連を反映

→ 男性と女性は、それぞれ進化の歴史の中で習慣を通して、生殖上の成功を最大にする

○これが正しければ、もしくは、習慣の差異が他の一夫多妻制の種と同じパターンに連動するならば

仮説 1 息子と娘は全ての社会で異なる教育をされる

仮説 2 息子は娘よりも、パートナーを得るために役立つ生殖の操作や獲得の結果のような、競争的な習慣について強く教え込まれる

para2 ← これらは、教育において全世界に性的差異が存在するという以上のこととは何も予測していない

→ 以下は分かりきったことではなく、より特定の予測を生み出す試み

仮説 3 より強い一夫多妻制の社会であれば、男の子はより努力することを教えられる

一夫多妻制の生殖の成功の変化…一部の限られた男性だけが成功し多くの男性は全く失敗する

→ 男の子に努力を教え込むことの価値は大きい

仮説 4 階層化社会では、男性にとって生殖上の成功のために努力することは無意味である

…女性は自分よりも高い地位の男性と結婚するかもしれないが、男性が自分よりも高い地位の女性と結婚できることはめったにない

…階層化社会は、男性に許される妻の数を地位ごとに制限するルールを持つ

← 一夫多妻制と階層制の二つの状態を分けることが重要であるということではない

仮説 5 過度の上昇婚を持つ、階層化された一夫多妻制の社会では、娘に対して性的抑制と恭順がより強く教育される ……地位の高い夫への、女性の明確な価値を増加させるため

仮説 6 夫方居住婚の社会…男性と男性の提携が発展し、重要
→ 息子は、新しい提携の構成員の有効な特徴をより強く教育される

仮説 7 相続のシステムを気にかけない社会/父系社会において、女性は日々の生活の中で、現実的な生殖的コントロールを持つ

……女性が生殖上で持つ実際のコントロールが大きければ(=生殖における男性への依存率が小さければ)、娘は服従的であることや恭順を教えられることは少なくなる

仮説 8 集団が大きくなればなるほど、個人の所有権に関する闘争の力は強くなる

← 集団(or 強力なリーダーや集団内の提携)が個人に一夫一婦制を課すと指摘(Alexander 1979)

Ex.)狩りや急襲において協力する男性の集団の拡大

→ 彼らの(生殖上の)所有権が分かれ、深刻な闘争になるかもしれない

Ex.)一夫多妻制で活動的な Yanomamo の事例

– 人々が、村に 200 人以上は居住しない(Chagnon 1979a, 1982)

集団が約 200 人より大きくなる→家族間の所有権の闘争が激しくなる

→ 集団は二つの小さな村に分かれるか分裂する

家族の境界に沿って生じ、遺伝子的生殖の所有権の流れはそれに続

く

para3 大きな集団の力のあるリーダー……集団内部の闘争を最小限にする

← 女性を巡っての闘争よりも強力なものではない

- ・争いが行われている 75 の社会のうち、女性は 34(45%)の社会で争いの根拠や報酬であった
- ・29(39%)の社会で、財産(生殖上の成功に関連する)は闘争の原因や報酬として位置づけられる

(Manson and Wrangham 1991)

→ 大きな集団内の男性の間での女性の所有権を巡る闘争

……他の集団と交流を行うとき、集団の有効性を深刻に損なうかもしれない

○一夫一婦制が一夫多妻制と比較して生殖におけるコストを生じさせようとも、集団の統一性や有効性の点から、一夫一婦制が促進される

p.352

para1 同じ論理→集団の規模が大きければ、特に男の子は、集団内の不和を最小限にするために、勤勉で従順で抑制的であると教育されるという予測を導き出す

○方法

para2 **サンプル**: 通常の比較文化的サンプルの雑多な社会を含む

← 地理的位置と言語集団によって階層化

民族学者によって、平均的な民族誌がかなりの時期において適任とみなされている

para3 子どもの教育のデータ・・・Barry et al.(1976)から取られたもの

←仮説が性差の予測を検証するものであったために、計画的に用いられなかった

○Barry et al.(1976)のカテゴリー ← かなり明確なもの

- (a)不屈の精神. 悩みや努力への表面的で可視的な反応の抑制
- (b)攻撃性. 人間や動物に対する攻撃的な習慣の教育
- (c)競争性. 他人、特に自分と同等の人よりも優越した達成 ex.)試合や仕事の競争
- (d)個々の独立. 管理されていない活動の開始や促進
- (e)達成. 技術の修得と卓越の要求(しかし、自分と同等の人との競争というよりも個人に関係がある)
- (f)勤勉性. 子どもを責任を負う仕事で忙しくさせるという基本的な必要性の勤勉さ
- (g)責任. 通常の義務活動や継続的な管理下でない経済活動
- (h)服従. 子どもが明確に従うと予期される程度は両親や他の権力象徴によって要求される
- (i)自己の抑制. 子どもが、感情をオープンに表現する度合い
- (j)性的抑制. 性愛行為、自慰、異性間行為の制限

○Barry et al.(1976)の教育タイプのカテゴリーの結論

- (a)タフネス. 不屈の精神と攻撃性、競争性 (b)成長. 独立と達成
- (c)従順. 産業と責任 (d)服従. 服従と性的抑制

・・・概略的なカテゴリー、広い傾向を分析するのに役立つ

○オリジナルの用紙の全ての番号・・・1 から 5、プラスとマイナス

← 単純な序数の基準で変換 (1=1,2=-2,2=3,2+=4,3=-5,3=6,3+=7,4=-8,4=9,4+=10,5=11)

- ・初期の子供時代: 子供が歩いたりしゃべったりすることに熟達するときに始まる
- ・後期の子供時代: 社会に依存し“取り扱いや地位において重要な変化”が特徴. 7,9,11歳で始まる

para4 サンプル中、89%(93のうち83)の社会が一夫多妻制

- ・一夫多妻制の度合いの数値・・・Low(1988a)によって取られたもの

男性と女性が一夫多妻制的に結婚する割合に結びつく

- ・妻もしくは内縁の妻の最大数の数値・・・Betzig(1986)によって取られたもの

基準は複雑 ← とても大きなハーレムの規模は、階層化社会で生じるため

- ・階層化の数値・・・Murdock(1967,1981)によって取られたもの
- ・女性の財産の操作における権利の数値

システムにおける男性の不在の数値・・・Whyte(1978)によって取られたもの

p.353

para1 母数によって決まらない統計値を用いる ← データが分類別の順序を表すものであったため

関係が直接的であることを予測されるとき・・・Spearman の rho(ρ)が計算された(Conover1980)

カテゴリー間の差異が予測される時…Wilcoxin の調和する組合せのランクの合計と、Kruskal-Wallis の統計値が計算された(Conover1980)

※計算は Michigan Terminak Sistem の MIDAS 統計学パッケージによって行った

○結果

para2 Barry et al.(1976)のオリジナルの研究のサンプル中…男の子と女の子の教育に広い社会で関連

- ・ p は 0.60(勤勉性)から 0.91(競争性)と並び、パターンが強かった(全ての場合で $p < 0.0001$)
 - ← 男の子に不屈の精神を教育した社会は、女の子においても不屈の精神が教育されている社会
- 教育の感情性において、これらのように広く 性的特徴のない差異…異なる子育ての形態を反映
 - ・ Whiting and Edwards 1988 の三つの形態

- ・ トレーニング育児法(積極的な支配と早い段階から子供が何かするのを手伝う方法をとる母親による)
- ・ コントロール法(子育てに仕事よりも叱責や脅しを用いる母親による)
- ・ 社会的な方法(遊びや情報の伝達のより多くの機会を持つ母親による)

para3



社会における男の子と女の子の教育には、感情の教育の広い差異から独立した重要な差異が存在

…男の子は女の子よりも不屈の精神を持ち、より独立的に教育される(表 33.1 図 33.1)

女の子は男の子よりも勤勉で、責任があり、従順で、性的に控えめに教育される(表 33.1 と図 33.1)

※教育の強さは、子供時代の初めより、子供時代の後の方でより顕著→さらなる分析は後期子供時代に限定

○一夫多妻制と階層化

para4 一夫多妻制の度合い(一夫多妻制の婚姻をする男性の割合と女性の割合で測られる)が高くなる

→ より多くの男の子が不屈の精神や攻撃性、勤勉さを教育される(図 33.2)

ハーレムの最大規模が拡大する

→ 男の子に対して不屈の精神や勤勉さ、責任、従順を示すための教育が激しくなる(図 33.2)

p.354

para1 最大ハーレム規模が大きい社会…多くの男性(低階級の)にとって生殖の機会を著しく抑制する階級社会

→ 階層化社会においては一夫多妻制が反対される

⇔ サンプル中、80 の一夫多妻制社会のうち、43 が階層化社会 (3 つは階層化に関するデータがなかった)

一夫一婦制社会の 7 つのうち 4 つ、一夫多妻制社会の 3 つのうち 1 つ

→ 非階層化社会から階層化社会を区別

para2 一夫多妻制の度合いと、不屈の精神・攻撃性・従順さ・タフネス・忠実さの男性への教育との相互関連

← 非階層化社会によるパターンから単独に出現する(図 33.2)

最大ハーレム規模と、男性への不屈の精神・勤勉さ・従順さ・タフネス・忠実さの教育との相互関連


← 非階層化社会の中の単独のパターンの結果(図 33.2)

従順さの教育と一夫多妻制の程度との関連…非階層化社会においては重要

⇒ 階層化による生殖上の成功の相違の制限…息子に努力することを教育することに重要な衝動を持つ

Ex.)男性の生殖的成功が、彼の社会的、階級的地位によるものであれば、両親は努力の価値の教育を行うとは考えられない。

p.355

para1  一夫多妻制の度合いの関係…階層化社会によって示されるパターンから単独に出現
Ex.)社会の階層化の厳格化 → 男の子への自己依存の教育↓、勤勉さの教育↑、従順の範囲↓

○男性に対する勤勉さと性的抑制の教育…階層化社会であるか非階層化社会であるかに共変しない

・勤勉さの教育

階層化社会…最大ハーレム規模が大きくなる→勤勉さの教育の激しさが増す

非階層化社会…パターンは明白ではない

・性的抑制の教育

非階層化社会…多少、最大ハーレム規模を拡大させる

階層化社会…一夫多妻制の程度に伴う反対のパターンが明白

一夫多妻制の程度が強くなると、男性の性的抑制の教育が多少減少する

para2 男の子と女の子への教育の激しさにおけるパターン…一般的に共変

→ 男の子の教育のパターン=一般的な子供の教育のパターンの反映. ≠性的選択の結果という仮説?

⇒ この可能性を除去するため、男の子と女の子への共変する所有権の教育の可能性を除去する必要

para3 12の特徴 ←階層化社会でも非階層化社会でも

…うち7つは一方の性に対して排他的(6つは男の子に対して排他的、1つは女の子に対して排他的)

・一夫多妻制(最大ハーレム規模)の激しが増す

→ 男の子の方が、不屈の精神や競争性、性的抑制、従順さ(非階層化社会)、勤勉さ(階層化社会)を教育

・階層化社会では一夫多妻制の度合いが大きくなる

→ 男の子は性的抑制をではなく、自己依存をより強く教育される

・非階層化の一夫多妻制社会において、女の子は責任感を持つよう教育される

← 観察されたパターンは、男の子と女の子の教育の中の共分散という単純な報酬ではない

p.356

para1 階層化社会においては、仮説は適用される

…結婚した女性は、自分と同じ階級の人と結婚した女性よりも、多くの子供を持たないかもしれないが、子供はより投資され、よりよく生き残る傾向にある

階層化社会において女性に望ましいものとして表現される教育…貞節と従順 (Dickemann1979b 参照)

○他の仮説

para2 夫方居住の社会：男性同士の提携を構成するより年配の男性…若い男性の出世にかなりの口ぞえができる

→ 息子は、他の社会よりも、より強く従順であるよう教えられる



para3 女性の方が親族集団において表面的に力を持ち、重要な財や教育の力をよりコントロールする場合

…娘は服従的であることを教えられない(仮説7)

…娘は攻撃性をより強く教えられ、勤勉であることはあまり強く教えられない

…娘はより強く活動的であること、努力することを教育される

para4 集団の規模の拡大 → 息子と娘の両方が、自己依存・従順さ・性的抑制・服従性を教育される(表 33.3)

← 男の子と女の子の教育は共変

…集団の規模が大きくなると、両性における、集団内の不和を減らすための教育は強くなる

← Alexander(1979)等の、集団規模の拡大に伴い、個人に対する社会の制限が生じるという主張を支持

Barry et al.(1976)の、政治の複雑さと自己依存、従順、性的抑制の教育との議論とも一致

○議論

p.357

para1 **結果**: 息子と娘が、二つの性における生殖上の成功の進化の歴史に関連した、異なる方法で教育される

← 他の一夫多妻制の哺乳類について報告する場合、ほとんど驚かれることはない

・進化の過程を通して人間の二つの性について生殖上の成功の異なった方針が存在すること

…一部の人にとっては不快なもの

⇒ 男女間の差異の理解、自身の社会での男女の習慣の平等化 ← 過去の選択的強制の理解が重要

para2 **重要な警告**

観察や議論からの民族誌による結論

…人々の証言は、明確に起こっていること

⇒ 観察的なデータのみ → 全ての社会のデータは比較できる時期のものではない

異なる民族誌は子供の教育に異なる興味を持つ

para3 将来の調査のために、より重要で、有益なこと

…ここで使っている(Barry et al.1976)分類は、各社会の程度の一つのレベルを示しているということ

すべての社会のすべての両親にとって最適な方法は同一ではないということ

Ex.)階層化社会では、高い地位の親の息子と低い地位の親の息子は、少し異なる教育を受ける

(Dickemann 1979b 参照)

← 親子の関係の性質や原動力は、個人の性質と相関関係にある(Hinde and Stevenson-Hinde 1986)

para4 子供時代の教育が、生殖的成功に影響する経済的、社会的圧力への親の反応であるという推論

⇒ 息子や娘への親の教育の生殖的成功が、社会によって異なるという直接的なデータはない

← しかし、男性の生殖的成功が財のコントロールと地位に関連するというデータは多くの社会で存在

para5 **Batzig(1986)**

…多くの社会で、表面的な生殖上の達成に対する報酬=高い地位の男性は多くの妻を持つことを示す

※Turkmen(Irons 1979a,1979b)・Trinidad・Ifaluk での事例

Chagnon(1979a): Yanomamo の事例

…子供や孫の数で測られる、男性の生殖的成功の差異は、地位と極端に関連付けられる

Chagnon(1979a,1982,1988)

…提携に役立つ男性親族は Yanommamo にとって大きな財産、パートナーとしての女性の最大限の有効性と、提携のパートナーとしての力を持つ男性の最大限に有効な男性

Yanomamo において、政治的な地位(チーフになること)は生殖的に有利である

→ チーフは復讐の殺人者、unokai になっていく(Chagnon)、大きな男性親族集団を持つ

Hill(1984): より少ないデータの細部について再調査

…いくつかの異なる社会(クン族,Murngin,ヌエル族,Tallensi,ラジブート,中国人)における、財のコントロ

ールもしくは名声と、男性の生殖的成功とのポジティブな関係を発見

トリンギット族とヌペ族という、二つの異なる社会において、男性が余剰財をコントロールすること、
これらがしばしば再生とは関係のないような方法であることを発見

para6 人口統計の推移の間と後でも、富は生殖上の衝撃を持った

Ex.)19 世紀のスウェーデン：平均よりも大きな農場の量を持っている男性は、平均より少ない農場しか
もっていない男性よりも、より多くの子供を持っていた(Low1991a)

Ex.)アメリカ：生殖的成功は富と明白な関係がある(Essock-Vitale 1984)と(Daly and Wilson 1983)

p.358

para1 明白な関係は、科学技術的か非科学技術的か、平等な社会か階層化社会かということを含む

→ すべての社会で男の子が努力することを教育されていることは驚くことではない

para2 母親であることは、父親であることよりも明確 ⇔ 女性の生殖的成功の関連のデータは捕えどころがない

← 一夫多妻制の婚姻を行う女性は、一夫一妻制の女性よりも子供が少ない傾向(Daly and Wilson 1983)

← 二人目の、もしくは次の妻は、一夫多妻制の夫の一人目の妻よりも子供が少ないため

Ex.)アメリカでは、裕福な男性の妻は、貧しい男性の妻よりも人生の早い段階で多くの子供を持つ(Daly and Wilson 1983)

para3 Barry et al.(1976)・・・教育の間の関連は、女の子よりも男の子により強い

男性の生殖上の成功は、女性よりも可変的

→ 両親にとって、娘の教育よりも息子の教育の方が生殖上の報酬が高いという意見を支持する可能性

子供たち自身が、優越や攻撃性の認識においてすぐに性差をみせる ← この文脈では興味深い

男の子 3歳：女の子よりも大きな集団の中で、より活動的な遊びをする

4歳：自分たちを力強く目立たせようとする(Omark and Edelman 1975)

6歳：権力ヒエラルキーを形成し、それらに正確に気づき、自分の地位を操ろうと試みる(Freedman 1980)

女の子 ...全体の取るに足りない疑問を抱く

=Piaget(1932)・・・女の子が、ルールに面して自分の態度に対してより寛大であり、例外を作りたがる

para4 男の子は女の子よりも、年齢が様々入り混じった大きな集団の中で、競争的に遊ぶ

・・・そうでなければ、男の子の遊びは女の子の遊びよりも長く続く(Lever 1976)

← 男の子の遊びが、ルールを越えて競争を続けることがあり、争いの解決しようとするため



女の子の間では、口論の発生=ゲームの終了の傾向

← 女の子は関係の継続のために、ゲームの継続を犠牲にする

→ 進化の過程の中で、女性が、姉妹や妻たちの集団とともに作る家事における提携によって、自分の生殖上の成功を高めてきたとすれば理解できる

← 彼女らが開かれた闘争や、提携を変化させる試みることによっては獲得することができない状況

況

⇔ 男性は、男性同士で財と力を得るための提携を作ることによって、自分の生殖上の成功を高めてきた

← 表に出した優越の主張がしばしば得られるという状況 (Law 1990b)

para5 男の子の教育において可能性のある生殖の成功上の、一夫多妻制と階層化の結果の相互作用

・・・生殖の成功の可能性が増す → 男の子は、勤勉さ・従順さ・攻撃性を教えられ、不屈の精神を見せる

← 非階層化社会においては多様性が大きい ← 民族誌の調査は、このパターンの重要性を強調

- ・非階層制の一夫多妻制社会・・・相続は男性に偏る傾向(Hartung 1982,1983)・男性の提携は力を持ち、夫方居住社会である(Boone 1986;Flinn and Low 1986)
 - 男の子は財を得て管理する有効性を教育されるだけでなく、提携の中で、妻との契約のために必要な援助をしてくれる年配者に自分を勧める
- ・階層化社会・・・男性の提携は重要であるが、彼らは親族関係にない男性の間において、男性のヒエラルキーの中で昇進する能力は厳しく強制される(Betzig 1986)

p.359

para1 以上は、文化間の子供の教育のパターン ← 異性間の区分方法の差異と、集団規模、婚姻システム、階層性の違いの進化理論から予測できる点で異なる

para2 謝辞.

34 Comparing Snakes and Snails and Puppy-Dog Tails to Sugar and Spice:

Reflections on Cross-Cultural of Hypotheses BOBBI S.LOW

p.360

para1 **本論の中心的仮説**

- ①もし、両親が息子と娘に異なる教育をすることで、生殖的に利益を得るならば、息子と娘が文化を横断してどのように教育されるのかについて、信頼できる差異が存在する
- ②そのような差異の程度は、それらの差異の選択(遺伝的であっても文化的であっても)の強さによって予測できる観点において異なる

para2 **使用するデータ**: 186 の社会の比較文化の基礎サンプルデータのうち 93 の社会のもの

- ← 地理的位置(地理的地方)と言語集団によって階層化
- ← 文化横断的データの使用に対する民族学的体系の中に、広い偏りが存在する(Barry 1981)
 - …比較の方法がどのように働くのかを理解することの失敗に起因
 - ※筆者が以下に調査したため、これらのデータは重大な制限を受けている

para3 **前提**: 人々が報告することは彼らが実際に行うことを反映している

- ← Barry et al.からの数値は、子供の教育についての、人々の規範的な信念のよりよい予想
- 多くの歴史的研究の中では、一部の人々が報告したことは、他の人々の行うことではない可能性
- ⇒ 小さく、あまり階層化していない社会では、重要で気付かれていない人口内の多様性のリスクは、高度に階層化した社会よりも小さいかもしれない
- ⇔ リスクは全ての場合に存在し、情報は社会的多様性を反映したものではない
- ここでは、婚姻システム・成功した成人男性と女性の好まれる特性・異なる環境における、両親による息子と娘の教育・子供が異なる親によって異なる方法で教育された実際の結果などのデータを得る

para4 多くのテキスト…白人男性によって書かれたため、重大なバイアスがかかっている

- すべてのデータは単純に信頼できない
- ここでの二重のアプローチ
- ①解釈に依存する情報は、出版された情報から取る
- ②暗号の中のスコアの一致が出版されたものを使うという、Martin King Whyte(1978,1979)のように、データを使う

p.361

para1 **結果**: 仮説の検証という点においては一致するが、何の因果関係も証明しなかった

- データは他の仮説と一致する可能性?
- Barry et al.のオリジナルの論文…子供の教育過程の訓練は、伝統的な社会の経済と結びつく

- Ex.)農業経営者と家畜所有者は従順さを強調する
- ・全ての努力は、比較と誤りの立証のための代わりの仮説を発見することにつながる
- ⇔ 自身がそれらの誤りを立証するどころか、全てを発見していない

想定した結論: 非階層化の一夫多妻制社会においては、断定的で独創力を見せる男性は、他のことが同じであれば、他の人よりも早く、頻度も高く結婚し、多くの子供を持つ

- 今必要なこと…社会内のデータ. 社会において“成功者と推進者”を同一視する男性はより早くより多くの子供を持つのか? ということの検証

para2 これらは、文化的に伝わるパターン

- ┌ ルールや均衡状態の頻度は、文化的に伝わる特性と、遺伝的に伝わる特性との間に差異がある

(Boyd and Richerson 1985)

- ・ パターンの文化的伝達：親から子供への垂直的なもの(遺伝的伝達に類似した方法)

斜め方向(大人と子供に何の関係もない)

水平(匹敵する人々の集団)

← そして後の二つの方法は文化を横断する(Cavalli-Sforza and Feldman 1981)

- ・ 比較文化的な文化的伝達・・・パターンの複雑な解釈

← アフリカの社会では、男の子が強く努力するよう教育され、その社会は比較的一夫多妻制である

- ・ 地理的に近い社会・・・文化のパターンを共有することで知られる(“文化拡散”)

→ 人間社会を比較する中で、多種の比較を行い、“表現型的な戦略”を利用する(Grafen 1991)

- ・ 伝達(遺伝的、文化的)の形態と特性の関係がどのようなものであっても、それが平衡関係になり、見たものが選択されたものを反映するに十分な時間が経ったと想定する

← 伝達と選択が大きく文化的である(そしてとても速く変わり得る)特性の場合、平衡関係にない特性を見る我々のリスクは、非社会的特性を調査している場合より大きい(Williams 1992)

para3 まとめ

これらのデータを使った進化論に基づく仮説のセットの検証を始め、発生する興味深い事例を見つけた

⇒ 正確には、全ての通告を考えることなしには、それらを解釈したくない

- ・ 進化的／行動生態学上の方法論・・・民族学的、生態学的、社会学的方法論に起因する新しい仮説を作る
ときに、特に有効

→ ここでの分析は、これらの仮説を調査する助けとして役立つ